

# はじめに

---

「うちのおばあちゃん、ディズニーランドって言えなくて、デズニーランドって言うんだよね、どうして言えないのかなあ。」

「取引先からの電話に、部長は今いらっしやいません、って言ったら、先輩に叱られちゃったんですけど。」

「定年退職したら、海外で日本語教育をやってみたいのですが、外国人に日本語を教えるには、どのようにすればいいのでしょうか。」

「引っ越しをしたら、周りの人が方言をたくさん使っているの、びっくりしました。同じ日本語なのに、どうして方言の違いがあるんですか。」

「英文法とか古典文法って学校で習ったけど、普通の日本語の文法って、習ったことないような気がするなあ。まあ、習わなくても使えるからいいんだけど。」

日本語について、このようなことを思ったり、考えたりしたことはありませんか？

スポーツに国境はないといいますが、見知らぬ国の人と一緒にスポーツが楽しめるのは、ルールややり方が共通で、それを互いに理解しているからです。私たちがことばによってコミュニケーションできるのも、それと同じで、双方がことばの規則性(ルール)を知り、それに基づいてことばを使用しているからなのです。

ことばの規則性には、まず、発音の規則性、単語の作り方の規則性、文法の規則性のような「ことばそのもの」に関わる規則性があります。敬語や、書きことばと話しことばの区別などの「ことばの適切な使い分け」にも、規則性が見られます。また、日本語には、古典語と現代語の違い、方言の違いなどもあります。これも、それぞれの時代、それぞれの地域で、規則性を持って使用さ

れ、また変化してきたものです。

ふだんは意識していないかもしれませんが、ことばには規則性があり、それがたためにではなく、体系的に組み合わさって、ことばを作っています。この本では、日本語の持つ規則性と体系性を「日本語のしくみ」と呼んでいます。

この本には、日本語のしくみが見えてくるさまざまな現象を取り上げました。この本によって、日本語のしくみの不思議さとおもしろさを感じていただけたら、大変うれしく思います。

最後になりましたが、本書完成まで、多くの援助と力強い励ましをくださったくろしお出版の福西敏宏さんに、この場を借りて感謝を申し上げます。

2003年7月

著者一同

\* \* \*

2003年に発行した『やさしい日本語のしくみ』を、このたび改訂版として再び世に送り出すこととなりました。改訂にあたり、令和の時代にあわせて表紙を新たに、章を5つ追加し、いくつかの章では内容の一部を修正いたしました。

これまで本書を読んでもくださった皆様、本書で日本語学を勉強してくださった皆様に、深くお礼申し上げますとともに、本書が引き続き、日本語学のやさしい入門書として読まれていくことを願っております。

本書の改訂には、くろしお出版の池上達昭さんに多くのご助言とご支援をいただきました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

2020年4月

著者一同

# 目次

はじめに ..... ii

## 第1部 | 日本語の音と形 ..... 1

- 1 発音のしくみ 「ふ」ってどんな音? ..... 2
- 2 特殊拍 だるまさんがころんだ ..... 5
  - コラム① 「おとうさん」は仲間はずれ? ..... 7
- 3 五十音図 「あかさたな」と「いろはにほへと」 ..... 8
- 4 音素と異音 東京ディズニーシー? ..... 10
- 5 アクセント このはしわたるべからず ..... 13
- 6 漢字かな交じり文 貴社の記者は汽車で帰社。 ..... 16
- 7 短縮語 「家庭教師」は「カキョー」「カテキョ」? ..... 18
  - コラム② ことばを聞いて理解するときに私たちがしていること ... 20

## 第2部 | 日本語の文法 ..... 21

- 8 日本語の品詞 形容動詞は形容詞? 動詞? ..... 22
- 9 活用 「書かない、書いて」なら「行かない、行いて」? ..... 24
  - コラム③ カ変とサ変は五段と一段、どっちの仲間? ..... 26
- 10 格助詞 阪神が勝ったの? 阪神に勝ったの? ..... 27
- 11 使役 コロンブスの卵―「卵を立たせる」 ..... 30
- 12 受身 隣にビルを建てられちゃった。 ..... 33
  - コラム④ 日本語の受身と英語の受身 ..... 36
- 13 テンス 例の傘、ここにあった。 ..... 37

14	アスペクト	「ドアが閉まっている。」の英訳は？	40
15	モダリティ	北海道では雪が降っているだろうなあ。	44
16	条件	飲んだら乗るな。飲むなら乗るな。	46
17	名詞修飾	名詞を詳しく述べる方法	49

## 第3部 | 日本語らしい表現 ..... 51

18	連体修飾と 連用修飾	意外に似ている2つの修飾	52
19	省略	私は田中です。どうぞよろしく。	54
20	「は」と「が」	「こちらは田中さんです」と 「こちらが田中さんです」	56
21	とりたて助詞	「コーヒーしか飲まない」は、 コーヒーを飲むの？ 飲まないの？	58
		<b>コラム④</b> 「係り結びの法則」はどこへ行った？	60
22	「のだ」	昨日は指導教官のパーティーがあったんです。	61
23	授受表現	恩の国、日本？	64
24	敬語	鈴木先生は風邪で休むそうだ。	67
		<b>コラム④</b> この電車にはご乗車できません。	70
25	日本語学習者の 日本語	「明日持ってきてくれますね？」 「はい、そうですね。」	71

## 第4部 | 日本語の変化と多様性 ..... 75

26	ら抜きことば	「見れる」も「着れる」も歴史の証人	76
27	現代語に残る 古典語	「眠れる森の美女」は 「眠ることができる森の美女」？	78
28	日本語の地域差	「だよね」と「そやな」	81

<b>29 方言の周圏分布</b>	なめくじもかたつむり .....	84
	<b>コラム⑦</b> 国語と日本語、母語と母国語 .....	87
<b>30 ことばの位相差</b>	そちらのお品をあつしにくだちやい。 .....	88
<b>31 現代敬語の特徴</b>	敬語は敬意の表現にあらず？ .....	91
<b>32 ことばに潜む差別</b>	昨日診てもらったのは女医さんだった。 .....	94
	<b>コラム⑧</b> 花子さんはガンに勝ちました。 .....	96
	もっと学びたい人のために .....	97
	この本を書く際に参考にした文献 .....	98
	索引 .....	101
	著者紹介・執筆項目 .....	104

## 第1部

---

# 日本語の音と形

私たちは音声を使ってコミュニケーションを行っています。いくつかの音を組み合わせると語が作られ、語を組み合わせると文が作られます。また、音声を目に見える形に置き換えたものが文字です。ここでは、日本語の音声・表記・語のつくりや形などの特徴について見てみましょう。

# 1 発音のしくみ

## ✓「ふ」ってどんな音？

ふだん私たちは、話しことばの中で使っている1つ1つの音が、どのように作られているかということを考えることはまずありません。私たちはもうずいぶん小さい頃に、それらをどんなふうにするかということを経験してきて、考える必要がないからです。しかし、1つ1つの音がどのようにして作られているかを知ることは、いろいろな言語現象を説明したり考えたりするのに役立ちますし、また、ふだん無意識のうちに行っている発音という行動をじっくり観察し意識してみるのも、たまにはなかなかおもしろいものです。

まず、「ふ」の音を丁寧にしっかりと発音してみましょう。「ふ」のはじめの部分の音は、ろうそくを吹き消すときの音とだいたい同じです。鏡を見ながらこの音を発音してみると、上下の唇がものすごく近づいて、間にとてもせまい隙間ができているのがわかります。そこを空気が通り抜けるときにこの音が出ているのです。

どの音もそれを発するときには空気の流れ(気流)が必要です。「ふ」のはじめの部分の音も、ただ単に上下の唇の間にせまい隙間を作るだけでは何も音は出ません。他の音も同じで、たとえば「ば」のはじめの部分の音は、上下の唇がくっついて離れるときに空気が流れ出て、音が出ます。単に唇をくっつけた



「ふ」ってどんな音？

## 第2部

---

# 日本語の文法

ことばはルールにしたがって組み立てられています。このルールを文法といいます。文法はできあがったものを覚えるためではなく、ことばのしくみを整理し考えるためにあるもの。ここでは日本語のいろいろなルール（＝文法）を考えていきます。



## 8 日本語の品詞

### ✓ 形容動詞は形容詞？ 動詞？

日本語の「品詞」はいくつあるでしょうか。いろいろな考え方がありますが、その1つとして次の「十品詞」があります。

1	動詞		会う、行く、植える、選ぶ、終わる、貸す、…
2	形容詞	用言	熱い、痛い、薄い、偉い、遅い、固い、汚い、…
3	形容動詞		明らか、意識的、うららか、エスニック、…
4	名詞	体言	頭、石、浮き輪、エネルギー、おにぎり、…
5	副詞		あたかも、いそいそ、うっかり、おそらく、…
6	連体詞		あらぬ、いわゆる、大きな、かの、来たる、…
7	接続詞		あるいは、おまけに、が、けれども、さて、…
8	感動詞		あらまあ、いいえ、うわあ、えいえいおう、…
9	助動詞		させる、そうだ、だ、たい、らしい、られる、…
10	助詞		から、が、だけ、と、に、の、は、まで、を、…

この十品詞を、少し整理してみましょう。この中で、文を作るのにまず重要なのは、**体言**(名詞)と**用言**(動詞・形容詞・形容動詞)です。次に、体言・用言のそれぞれ前後に付く品詞があります。体言に付いて体言を修飾する品詞は連体詞、用言を修飾するのは副詞です。用言を修飾する品詞なら「連用詞」といってもよさそうですが、そうは言いません。ごく少数ながら体言を修飾する副詞があるからです。そして、体言と用言の後ろに付くのが助詞・助動詞です。助詞は主に体言を、助動詞は主に用言を助けることばです。

ここまでの八品詞は日本語の文を作る基本的な品詞で、残る2つは、できあがった文と文を結びつけるなどの働きを持つ接続詞と、それだけで1つの文として働くこともできる感動詞です。感動詞には「おはよう」「ありがとう」のような挨拶のことばや、名前を呼ばれて「はい」と返事をするようなときの応答のことばがあり、必ずしも感動しているわけではありません。